

こぶしの花*



「弘前公園『ハートの桜』撮影スポットにて」
国際交流センター主催・弘前公園観桜会(4/23)より

特集：地域との連携事業実施中 2

青森中央学院大学	4	附属第一・第二・第三幼稚園／	
青森中央短期大学	8	中央文化保育園／浦町保育園	12
青森中央経理専門学校／		学園共通	14
青森中央文化専門学校	10		

地域との連携事業実施中



人財育成、学術研究、その成果を社会へ還元するという高等教育機関の使命のもと、産学官連携を積極的に推進している本学園では、地域の歴史や文化、産業などに着目し、企業や団体、自治体などと連携して、学生たちの学びを地域へ還元するさまざまな活動を展開しております。学生が学びの成果として地域で実施している、連携事業をいくつかご紹介します。

＊ 青森市×小牧野遺跡×青森学生団体ディベラボ 青森の羊毛で小牧野遺跡商品開発事業



本学学生が所属する「青森学生団体ディベラボ」は、イベント開催や商品開発事業などを通じて、青森のさらなる発展と、学生のスキルアップをめざす団体です。2021年度は、あおりフィールドスタディ支援事業（青森市補助事業）として、小牧野遺跡と連携した商品開発に取り組みました。



▲ この事業は2021年度青森市学生ビジネスアイデアコンテストでグランプリを受賞

世界文化遺産に登録された北海道・北東北の縄文遺跡群を地域の宝として次世代に受け継いでいくためには、地元の方々に縄文への愛を深めていただくことが重要と考え、その一助となるよう「土偶起き上がりこぼし」という商品を作りました。この商品は青森県産羊毛を小牧野遺跡で採れたどんぐりで染めた材料を使用して作られており、コロナ禍の困難な状況においても何度でも立ち上げられるようにという思いがこめられています。



今後は実際に商品を発売して、さらに縄文遺跡の魅力を伝えられるような活動を展開していきたいです。



＊ 青森クア（健康）ガイド協会×クアウォーキングを支えようサークル 浅虫温泉地域のドイツ式健康ウォーキングをサポート



看護学部4年 竹島 里美



私たち『クアウォーキングを支えようサークル』は、青森市の浅虫温泉地域で行われている「ドイツ式健康ウォーキング（通称：クアウォーキング）」において、参加者の皆さんが安心・安全にウォーキングを楽しんでもらえるよう、ガイドサポート活動を行っています。浅虫の豊かな自然や歴史、文化を生かしたウォーキングを通じて、健康な地域づくりはもちろんのこと、人が集い、活気あふれる浅虫のまちづくりも目指しています。

そのため、青森クア（健康）ガイド協会のクアガイドさんをはじめ、青森市、浅虫観光協会、青森商工会議所、大学の地域連携課など、さまざまな機関が連携して、クアウォーキングや私たちの活動を支援してくださっています。これからも、看護学部は健康増進活動の学びを、経営法学部は

地域活性化の学びを、といったように両学部それぞれの得意分野を生かした活動を継続していきたいです。



▲ 今年5月のウォーキングに参加したメンバー（左上：竹島さん）

＊ イトーヨーカドー×青森県×青森中央短期大学食物栄養学科 県産食材で弁当開発



報道向け報告会 弁当販売の様子



産（株式会社イトーヨーカ堂）・学（青森中央短期大学）・官（青森県農林水産部総合販売戦略課）が

連携し、食物栄養学科の学生が企画したお弁当の販売事業が、昨年度で10周年を迎えました。

開発に携わった学生からは、「お弁当のコンセプトの構想から、メニュー開発、試作等に関わり、貴重な経験がで

きました。昨年、10周年を記念したお弁当が青森店で販売され、自分が開発に関わった商品が完売しているのを目にし、達成感とやりがいを感じました。今年のメニューはまだ内緒ですが、ぜひ青森のイトーヨーカドー店舗でお買い求めください!」とお話をいただきました。



＊ JA青森×青森中央短期大学食物栄養学科 県産野菜でレシピ考案

JA青森の広報誌『結び』2021年6月号から、食物栄養学科の学生が考案した野菜を使ったレシピが掲載されています。2022年5月号には『大根を包んで揚げちゃいました』が採用されました。

レシピを考案した学生たちは「大根を揚げられないか、という発想から作りました。友人たちといくつかの案を出し合いながら、楽しくレシピ開発ができました。私たちが考案したレシピが採用されてとても嬉しかったです!レシピ開発の楽しさを知ることが出来た貴重な体験となりました。」と話していました。



▲ JA青森広報誌「結び」
2022年5月号より



実践的な学びで 地域に貢献

食物栄養学科の学生がレシピを作る際には、食材を活かす調理の工夫や郷土料理のアレンジなど、日頃の献立作成とは異なる視点を加えて、アイディアを練り上げます。このような活動は、学生が授業での学びの成果を発展させ、地域に向けて実践する、貴重な体験の場となります。自分たちの作成したレシピが、売り場や紙面で消費者に受け入れられ、反応をいただき、学生は自信をつけ実践力を高めています。

とくに県産品を活用して地域を元気にする今回のような活動は、青森県の食育基本方針である地産地消の推進や給食での地元食材の活用などにもつながります。地域で活躍する栄養士を目指す学生にとっては、まさに実践的な学びです。昨年度は、卒業時

に「地域に貢献する意識が身についた」と感じている学生が85%に達しました。

青森中央短期大学は「情熱あふれるプロフェッショナルを輩出し、ともに地域と生きる大学」をめざして、青森のために学び得た専門性を発揮できる人材を育成し、地域の発展に貢献してまいります。どうぞ皆様のさまざまな活動、試みの際には、本学にもぜひお声がけいただけましたら幸いです。



青森中央短期大学
食物栄養学科
学科長・教授 清澤 朋子

2021年度の就職状況について

キャリア支援センター長・経営法学部教授 竹内 紀人

経営法学部の2021年度21期生の進路・活動状況の最終結果が確定した。日本人・留学生合計の就職率は前年度比2.8ポイント上昇の95.1%となった。コロナ禍で、特に留学生の帰国・就職希望組にとっては、前年度以上に困難な就職活動環境が続いてきたが、そうした中、十分に良好な結果であったと考えている。うち、日本人学生の就職率は前年度の96.9%を1.0ポイント上回る97.9%となった。この水準で1ポイント上昇というのは、想定を上回る結果といえよう。学生の健闘をたたえたい。

今回、特筆すべきは、県内就職率の高さである。日本人学生の県内就職率は、前年度比5.4ポイント上昇の66.7%に達した。地域の大学を標榜する本学にとって、地元志向の高まりは喜ばしい結果である。世界に羽ばたく人材も、地元で活躍できる人材もしっかりと育て上げていく。本学のポリシーに則り、世界と地域社会に求められる人材の育成に今年度も全教職員で取り組んでいきたいと思います。



▲ 2022年3月1日開催の学内企業就職セミナーにて

学内ワークスタディ制度活用しています

本学には、学生の職業観の涵養や人材育成、経済支援などを目的とし、学生が学内業務へ補助的に従事して報酬を得る「学内ワークスタディ制度」があります。この制度に登録した学生が従事できる学内業務は、公開講座の案内や学修サポーター、データ入力、翻訳業務など多様で、問合せ窓口は学習支援センターとなっています。この制度を利用して図書館司書の補助業務をしている学生にお話を伺いました。



▲ 横山さん(左)とシェーリーナさん

経営法学部3年 横山 季音

私は、今年から学生ワークスタディとして図書館で働いています。以前は、飲食店などで働いていましたが、勉強する時間が取りづらいことが悩みでした。そのため、募集を見たときに「ここなら学業との両立ができる」と思い、期待を込めて応募しました。実際には、両立はもちろん、ボランティアなどにも参加することもできました。仕事内容は、コピー機の用紙補充や返却された図書の配架など覚える事が多くあります。それでも先輩や職員の方々が丁寧に教えてくださり、安心して取り組むことができました。これまでいくつかアルバイトを経験しましたが、自分の望む環境で働くことができ、とても満足しています。

経営法学部3年 シェーリーナ チャイリー ウン

図書館のワークスタディに申し込んだきっかけは、友達からの紹介です。異なる国の人と交流できたり、本や新聞を読むことを通して自らの視野を広げることができるということを教えてくれました。ここでの仕事の内容は、主に図書館職員の補助です。例えば、図書の配架や新聞の切り抜きなどを行います。本をきれいに整理することで図書館を利用する皆さんがより本を探しやすくなると思ったうれしく、図書館職員の方々も優しく、とても楽しく働ける環境です。



縄文テーマの観光映像が学生部門最優秀作品賞を受賞

青森県の観光人財育成事業「あomoritourリズム創発塾」の一環として、昨年度、竹内紀人ゼミの学生9名が縄文をテーマとした観光映像制作に取り組みました。その作品が2022年3月「第4回日本国際観光映像祭」日本部門において、みごと学生部門最優秀作品賞を受賞。プロデューサー兼撮影班として活躍した学生から映像について伺いました。

経営法学部4年 相馬 幸太

私たちの映像作品「豊かな暮らしを、ありがとうーいにしえからのまほろばにて」は、三内丸山遺跡を単なる観光施設と捉えず、私たちの現在の生活とリンクした場所であることを実感する、というコンセプトの下、株式会社わとなさんの指導で制作しました。当初は昨年の夏休みに撮影を行う計画でしたが、コロナ禍で遺跡内に入場できなくなり、10月に撮影を行いました。結果として、秋だからこそ、三内丸山の自然の豊かさを伝えることができたと思っています。

埋設土器といった長年地中に埋まっていた土器から香る

強い土の匂いからは、縄文時代の人々の暮らしの息吹を感じます。まだ一度も遺跡を訪れていない方のみならず過去に足を運んだことがある方も、この作品を通じて、縄文からの悠久の時を感じていただくとともに、いにしえから続くまほろばに思いを巡らせて貰えると幸いです。



国際交流



弘前公園観桜会開催

2022年4月23日、3年ぶりに実施された国際交流センター主催の「弘前公園観桜会」では、60名を超える留学生・日本人学生が参加しました。参加学生に「新しい友達」というテーマで写真を募集し、応募のあった中から学生のコメントとともにいくつか紹介します。

大学院地域マネジメント研究科1年 王宇航〈中国出身〉

今回のお花見活動に参加できてとてもラッキーでした。4月の初めに九州から青森に引っ越してきました。弘前公園に着いて、すっかりサプライズを受けました。九州の桜より綺麗です。新しい友達もたくさんできて、誘ってくれた国際交流課の皆さんにも感謝しています。ありがとうございます。



経営法学部交換留学生 全財亨〈韓国出身〉

観桜会の時、私のルームメートのハオさんと一緒に撮った写真です。観桜会で『お化け屋敷』と『花筏 (はないかだ)』という単語を習いました。



オンライン留学に参加して

コロナ禍で海外への自由な往来が制限されていますが、オーストラリアにあるサザンクロス大学が開催したオンライン留学プログラムに、青森中央学院大学から8名の学生が参加しました。参加学生の感想を紹介します。

経営法学部4年 坪 結菜

コロナの影響ですっと行きたかった留学を諦めていましたが、オンライン留学のモニターという機会をいただくことが出来て嬉しく思います。何を言っているのか理解できず、予習復習も必須で、慣れないうちは大変でした。まだまだ自身の英語力が足りないことを実感したので、だからこそどうするべきかを試行錯誤しました。留学の内容は、オンラインであってもオーストラリアの文化、雰囲気を感じることができ、充実していました。もっと英語が上手になりたいと感じました。



修了証を手にする坪さん(右)と花田さん ▲

経営法学部2年 花田 瑠緒

3週間のオンライン留学を通して、「聞く・読む・話す・書く」の英語4技能を鍛えることはもちろん、自ら発言することを恐れずに行動する積極性を身に付けることができました。初回は聞き取るだけで手一杯だった私が、3週間後には、現地のホストファミリーと20分も英語で会話することができ、成長を実感して本当にやりがいを感じました。実際に現地に行く留学の準備として、コロナ禍だからこそ経験することができた非常に有意義なプログラムでした。

大学入学時320点だったTOEICスコアも、学内のTOEIC講座で勉強を続け、プログラム参加前には540点まで上がりました。このまま勉強を続けて、2年生終了までに700点突破することが今の目標です。今回のオンライン留学で得た積極性と行動力を活かしてこれからも頑張ります。

看護師特定行為の研修制度と修了生による活動報告

看護実践センター長 一戸 とも子

本学の看護師特定行為研修は、2022年10月から3期生の研修を開始します。4月23日に、オンラインで本研修の啓発を目的に、東北厚生局の看護指導官による「看護師特定行為研修制度の概要」と、1期生（2021年9月修了）による「看護師特定行為の活用状況」の2つのテーマで講演会を開催しました。

修了生は、勤務されている病棟において「持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整」や「脱水の補正」の特定行為について、具体的なアセスメントをもとに主治医と協議しながら症状の改善に努めた事例を講演されました。現場における特定行為の実践には、医療チームにおける理解・協力が重要です。今回の修了生の活動に、

研修機関として大いに勇気づけられました。

全国の特定行為修了者は4,393名（2021年9月時点）と年々増加していますが、一層の養成が求められています。多くの方に本研修に関心をお持ちいただき、本学で研修いただけることを期待しています。



看護学部・病院等説明会開催

2022年3月24日、就職活動が本格化する看護学部3年生（現4年生）と、就職活動の準備を始める2年生（現3年生）を対象とした「看護学部・病院等説明会」を開催しました。コロナ禍により、病院見学や臨地実習などへの参加が思うように進まない学生たちにとって、病院や施設担当者、本学卒業生から直接お話を伺うことで、大変参考になったと感想をいただきました。



就職後の自分をイメージ

看護学部3年 三上 桃佳

病院見学や実習がコロナ禍で制限されている中、この説明会で直接お話を伺い、各病院の特色や強みなど貴重な情報を得ることができました。特に、スタッフ同士の雰囲気や病院周辺の地域の環境、新人教育などについて具体的に説明していただき、パンフレットだけでは分からなかった情報が就職先を決めるうえでとても参考になりました。また、卒業生が説明をしていた病院もあり、仕事のやりがいや大学での学びが現場で役立っているなどの実体験を聞いて、就職後の自分の姿をイメージできました。

今回複数の病院の説明を聞き、キャリア支援や福利厚生などの新たな比較の視点を持ったので、候補になかった病院ももう一度調べ、自分の考えや働き方に合った病院を選びたいと思います。病院等説明会で得たチェックポイントを各病院見学やインターンシップでも活かし、就職に向けた準備を進めていきたいです。



病院の雰囲気や特色を把握

看護学部4年 小笠原 綺華

今回の説明会には青森県内の多くの病院が参加しているので、自分が就職を考えている病院や気になっている病院の説明をそれぞれ聞くことで、新人教育の制度や福利厚生等を比較することができ、就職を希望する病院の志望理由をより具体的にしていくことに役立ちました。また、その病院で働く看護師が説明をしてくださる病院もあったので、病棟の雰囲気やプリセプター制度の実際等を知ることができ、病院の特色や新人教育についてより具体的に把握することができました。

コロナ禍でインターンシップに参加することができず、それぞれの病院の特徴を知るのが困難な状況でしたが、病院等説明会に参加することによって、パンフレット等の資料からだけでは収集することができないより具体的な情報を得ることができたので、就職活動を本格化していく上で重要な機会になったと考えています。





成人看護学領域の学び

看護学部4年 三上 有紗

「成人看護学概論」では、成人期にある人の特徴や看護理論について学び、「成人看護援助論Ⅰ」では慢性期疾患や援助方法、患者教育などといった慢性期にある患者とその家族の特徴や看護について学んでいます。「成人看護援助論Ⅱ」では、急性期看護の特徴や考え方、手術時の看護や合併症の予防など、さまざまな疾患を通して学びます。

授業では看護過程の展開やグループワーク、患者体験、リーフレットの作成、退院指導などを行います。「看護過程演習」でアセスメントする際の視点について学び、実習ではそれを活かして優先順位を考えた情報収集を行うことができました。また、演習では患者・看護師役で退院指導を行います。患者さんの理解度に合わせて進めていくことが大切なため、実習でも患者さんのペースに合わせて、顔さや表情をよく見ながら指導を行っていきたいです。



▲ 成人看護学領域を学ぶ仲間たちと(写真左：三上さん)

地域との連携

青森市新町商店街 「花植え作業」に参加しました

2022年4月16日、青森市新町商店街振興組合が主催する「花植え作業」のボランティア参加者が青森市新町通りのパサージュ広場に集いました。JR青森駅を起点とする新町商店街のメインストリート在花で彩り、買い物客や観光客に気持ちよく商店街を歩いていただきたいとの思いで行われているこの作業は、毎年春の恒例となっており、本学の学生11名もボランティアとして参加しました。

作業用の手袋とスコップを手に、参加者数人に分かれてアーケードに点々と設置されたプランターへ花植え作業を進めました。参加者の中には、いつも大学の周辺で用事を済ませることが多く、駅前まで来ることは少ないという青森市外出身学生もいました。作業をしながら商店街のお店や装飾を観察したり、時折、通りを歩く方から励ましのお声を掛けていただいたりと、充実したボランティア活動ができたようです。



コロナ禍だからこそ繋がりを作ろう ねぶたのお面制作プロジェクト

経営法学部4年 俵山 健

コロナ禍において2年連続で青森ねぶた祭が中止となってしまった中、学生有志が集まり、自分たちでできることはないかと模索し、ねぶた師の立田龍宝さん協力の下、横内地区の子どもたちと一緒に大きなねぶたのお面制作を行いました。お面は、コロナ終息を願い、疫病退散の守護神「不動明王」をテーマに制作しました。

立田さんに紙貼り作業等を学生が指導していただき、作業を覚えたら今度は学生から子どもたちに作業を教えるなど、お面制作を通して地域の子どもたちと交流しました。3月中旬から制作を少しずつ進めていき、遂に完成した時は本当に感動しました。ねぶた制作の大変さと技術の高さを実感し、改めて青森ねぶたの魅力に気づくことができました。今年もまた、ねぶた制作に挑戦したいと思います。



食物栄養学科長より

食物栄養学科学科長・教授 清澤 朋子

昨年度、故前学科長久保薫先生の下で学科長補佐を務めました。新たな生活様式での激動の一年を、育休で家にこもって過ごした私は、復帰後まさに「浦島太郎状態」で多くの皆様に支えていただきました。教育理念や育てたい栄養士像などの熱い想いを先生方に改めてうかがい、学科の教育を見つめ直し、誇りに感じた一年でした。また、開学50周年記念の交流講座では、私が初めてクラスアドバイザーを担当した卒業生の、頼もしく成長した姿と、その活躍に目を輝かせる学生の様子を見て、学科の歩みに思いを馳せました。

私たち食物栄養学科は、昨年度、久保薫先生という大きな

道標を失いました。私たちは、久保先生が見守り、導き、背中を押してくださった学科の教育、研究、地域・食育活動を大切にし、そして社会の変化に対応するため留まることなく進み続けていかなければなりません。短大を元気に、地域を元気にできるよう、学生や教職員、卒業生、地域の皆様が元気に生き生きと活躍できるように、学科一丸となって邁進してまいります。



卒業生から学ぶ 「給食管理基礎実習」

食物栄養学科1年生が履修する「給食管理基礎実習」は、調理器具と厨房機器を安全かつ正確に扱うことを目的とした授業です。学科の卒業生であり、附属第三幼稚園・浦町保育園・中央文化保育園の栄養士の先生方がアシスタントティーチャーとして授業にたずさわり、学生を指導してくださっています。

学生は「現場経験が豊富な先生方から聞くお話は貴重で、『栄養士になるんだ』という意識がより芽生えました。先輩の背中が大きくて、相談にも気軽に乘ってくださいます。」と話していました。働く現場を意識しながら給食の基礎を学ぶ、実りある機会となっています。



▲ 指導にあたる中央文化保育園の栄養士・京野七瀬さん(写真右)



編入学で視野を広げて 新しいことに挑戦



食物栄養学科卒業生 秋田 流有

私が食物栄養学科から青森中央学院大学経営法学部に編入学をした理由は、栄養士として働くために必要な食に関する知識や健康課題について勉強しているうちに、地域の問題の一部分や人を対象とするだけでなく、地域の問題にもっと広く働きかけることのできる人材になりたいと思ったからです。

短大の2年間は非常に濃くあっという間で、学ぶことも多く充実していましたが、まだ学べる時間はたくさんあると感じ、もう少し勉強をしたいと思います。そこで、地域全体に働きかけ、生まれ育った青森市のために働く公務員を目指して勉強しながら、新しい分野の勉強や新しい人との交流、挑戦をするために、公務員講座もある経営法学部に編入することにしました。

2年間で栄養士の資格を取っても、さらに勉強をする時間は大いにあります。専門資格をとった上で、栄養の他に興味のあることをさらに学びたい、視野を広げて新しいことに挑戦したいと思うのであれば、編入学という道も視野に入れて色々な経験をするのも新しい決断だと思います。





幼児保育学科長より

幼児保育学科学科長・教授 前田 美樹

本学に勤めてから20回目の春を迎えました。過去に起きた様々な出来事が懐かしく感じられるのは、季節が繰り返されてきたという証なのでしょう。

先日、開学50周年記念事業で制作された「大豆の唄」を使って、浦町保育園の園児たちと一緒に表現遊びをしました。この唄は、子どもたちが季節や自然を五感で感じながら、ひと粒の大豆になりきって即興的に表現遊びをすることを目的に制作されています。「どうしよう、葉っぱがこんなに増えてきちゃったぞ」と、腕をざわざわ動かしている私の突拍子もない動きや言葉に、子どもたちはゲラゲラ

笑い白目になりながらも、一緒にゆらゆら揺れて大豆の枝になりきっていました。

子どもたちとの素朴で真剣な遊びや関わりのなかに、教育者としての課題や喜び、そして成長があるのだと思います。お互いに気づき、学び合うことが教育の本来の形であると、原点に立ち返ったような清々しい気持ちになりました。



スマイルチャレンジは 貴重な経験



幼児保育学科2年 齋藤 さくら

「スマイルチャレンジ」とは、子どもたちに体を動かすことの爽快さや、スポーツの素晴らしさを体感してもらうことを目的とした活動です。この活動を通してJFA（日本サッカー協会）公認キッズリーダーの資格が取得できるため、保育現場での実践に繋げることができます。今年度最初の活動は4月28日に行われました。子どもたちと一緒に体を動かすことの楽しさや、仲間と協力することの大切さを実感できました。参加した子どもたちには、諦めずにできるまで挑戦したり、友だちの活動を応援したりする姿が見られました。

また、附属第一幼稚園の先生やコーチの方々も参加する活動なので、コミュニケーションを取りながら、楽しい雰囲気になることを意識して行いました。短い時間の中でも、スマイルチャレンジを通して子どもたちの成長を間近で感じることができます。保育者を目指す私たち学生にとって、とても貴重な経験だと思います。



ビオトープでの合同保育



幼児保育学科2年 佐々木 ゆい

ビオトープサークルでは、毎月第二・第三木曜日の2限目に附属幼稚園園児との合同保育活動を行っています。活動場所は、キャンパス内のビオトープで、附属幼稚園の子どもたちが遊びに来てくれます。メダカやエビ、アメンボ、カエルを捕まえてみるなどして、自然に触れながら一緒に遊びます。

虫やカエルが苦手でも、子どもたちと協力して生き物を捕まえたり、一緒に観察することはとても楽しいです。雨が降ってビオトープでの活動ができない場合には、附属幼稚園の中で子どもたちと遊ぶこともあります。室内で遊ぶ内容は自分たちで考えるので、保育士に向けての準備にも役立ちます。手作りの「ビオトープすごろく」をしたこともありました。

活動の時は、たくさん遊べるように動きやすい「ジャージ」がおすすめです。学生参加は自由なので、予定の合う方はぜひ一緒に遊びましょう！



青森中央経理専門学校 青森中央文化専門学校

STYLE PROUD 参加

青森中央文化専門学校トータルファッション科2年の6名が、「STYLE PROUD」に参加します。このプロジェクトは、株式会社ランティエ様主催の、日本の製造業の方々の「日本のものづくりを知ってほしい」「服づくりの楽しさを知ってほしい」という思いからはじまりました。一般からデザイナーを募集し、シーズンに合わせてデザインした製品を、日本国内の工場で生産し、ダイレクトにお手元にお届けする完全受注販売サイトです。また、Instagramでコーディネート提案までお届けする全く新しい販売形態となります。

ファッション系の専門学校の参加としては、本校が初となります。アパレル専攻の学生がメインにデザインを考え、ファッション販売専攻の学生がトレンドを調査し、市場で求められている商品を考えます。さらに、学生自らがモデルとなり、スタイリングの提案まで行います。5月に第一弾のデザインが決定し、9月秋口の販売開始に向けて着々と進んでいます。公式のInstagramでは学生の活動をリアルタイムで見ることが出来ますので、是非チェックしてください！



STYLE PROUD
はこちら



公式Instagram
はこちら



卒業制作発表

2022年2月7日、青森中央経理専門学校では卒業制作発表を行いました。2年生20名が各コースで学習してきたことを踏まえて各々テーマを設定し、プレゼンテーションソフトを使用して発表を行いました。プレゼンテーションソフトを使用しての発表に、学生たちは、スライドの切り替えのタイミングや話すスピードなどに気を付けながら、本番に臨んでいました。

また、発表後には質疑応答も行われ、聴講者からの質問に対して、自分の意見や考えを分かりやすく伝えるように答えていました。司会を担当した森 菜々香さんは、「以前より人前でも堂々と話せるようになった。社会人になっても今回の卒業発表の経験が絶対に役立つと思う。」と感想を述べました。



入学式・オリエンテーション

2022年4月6日、2022年度の専門学校入学式を行いました。当日は、昨年度同様、新型コロナウイルス感染症予防対策として出席者を限定し、44名（経理：33名、文化：11名）の新入生を迎え入れました。新入生らは緊張した面持ちのなか、各々の目標に向かって2年間の専門学校生としての第一歩を踏み出しました。



また、4月7日と8日にはオリエンテーションを行いました。校長先生からの教育方針説明から始まり、学務ガイダンス、シラバス説明、自己紹介、学園が設置している各センターからのガイダンス、サークル紹介、外部講師による講話などのプログラムを実施し、今年度の学校生活がスタートしました。

Bunka Fashion Live 2022

2022年2月20日、Bunka Fashion Live 2022「MeRge」が開催されました。今回も新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、無観客・公式YouTubeアカウントでの配信で実施しました。

学んだ知識と身につけた技術の集大成として、衣装はもちろん、企画、演出、構成、照明、音響まで、すべてを学生たちの手でつくりあげた全9テーマ・47体の衣装を発表。1年生は初めてのファッションショー、2年生は卒業前最後の大舞台ということもあり、各々の感性が現れた素敵なステージとなりました。YouTube「青森中央文化専門学校公式チャンネル」にて、Bunka Fashion Live 2022をご覧になることができます。過去のショーも見られますので、是非ご覧ください。



YouTubeチャンネル
はこちら



附属第一・第二・第三幼稚園／ 中央文化・浦町保育園

教育方針

健康で明るく心豊かな子ども

●友達と仲良く遊ぶ。

●思ったことははっきり話す。

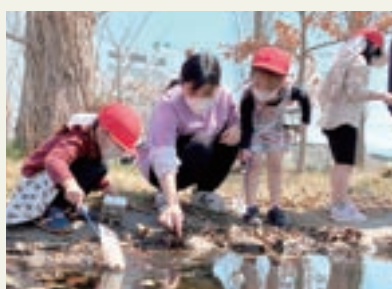
●よく見、よく聞き、よく考える。

●自分のことは自分でやる。

附属第一幼稚園



ドキドキの入園式!
新しいお友達できるかな♪



大学の学生さんたちとピオトープ探検☆
生き物み～つけた!



自然を守る!ばくら緑の幼年団!
たくさんのゴミを拾ったよ!

附属第二幼稚園



みんなで力を合わせて作ったこいのぼり!



お誕生日おめでとう!
みんなでケーキいただきます♡



キラキラのシャボン玉、きれいだね♪

附属第三幼稚園



始業式
進級して、新しい年が始まります



4月のおはなみ誕生会
今年のテーマは「マリオ」です



大好きな給食の時間
みんなで食べると2倍おいしいよ!

中央文化保育園



陸軍墓地に遊びに行ったよ～✨



大学のピオトープで魚釣り?

浦町保育園



満開の桜の花のような
にこにこ笑顔の子どもたちです

先生達活躍しています

成長していく姿に感動

私は附属第一幼稚園に勤めて6年が経ちます。この第一幼稚園は、自分が育った母園でもあります。就職先を決める際「自分が育った母園で働きたい」「当時の先生と一緒に仕事をしてみたい」という憧れもあり、就職を決定しました。

一年目は以上児クラスの担任をさせていただき、今年度は一歳児クラスの担任となりました。以上児クラスでは言葉でのやり取りが普通でしたが、未満児は言葉も少ししか伝わらず、初めは関わり方の違いに戸惑いました。しかし、たくさん言葉をかけながら一緒に遊んだり、触れ合う時間を大切にしたりすることで、徐々に信頼関係を築くことができました。

認定こども園青森中央短期大学附属第一幼稚園
越田 千聖先生



「今日は昨日より多く歩けたね!」「初めて〈先生〉って言えたね!」と、毎日成長していく姿に感動しています。

日々、子どもたちの遊ぶ声や、たくさんの笑顔溢れる中で過ごし、また信頼し、支えてくださる先生方に囲まれ、幸せを感じています。仕事内容や保育の仕方など、基本が定着してきた今、さらにレベルアップができるよう常に挑戦し、何事にも前向きに取り組むことを心掛けています。今後も子どもたちの安全を第一に、丁寧な関わりができるよう努力して参りたいと思います。

子どもたちの成長にやりがいを感じて

附属第二幼稚園に勤めて2年目となり、昨年度担任していたクラスを持ち上がり、今年度は年長組の担任となりました。日々の園生活や行事等で分からないことや悩むことがたくさんありましたが、先輩方にアドバイスをいただき支えてもらいながら毎日過ごすことができています。

正直、2年目での年長担任に緊張と不安がありました。しかし、その緊張や不安が吹き飛ぶくらい毎日子どもたちからパ

認定こども園青森中央短期大学附属第二幼稚園
田邊 芽瑛先生



ワーをもらっています。また、子どもたちの成長を間近で感じたり、発見や感動を共有しながら楽しく過ごすことができるこの仕事にとってもやりがいを感じています。

日々子どもたちから学ぶことばかりで、私自身もまだまだ成長途中ですが、これからも子どもたちと共に成長しながら経験を積んでいきたいと思っています。

毎日が学びの連続です

浦町保育園に勤めてから11年が経ちました。最近、以前担当した子が活躍しているのをTVで見たり、偶然会って「保育園の先生になるんだ」と聞いたりすると、立派に成長した姿にとっても嬉しくなります。

今年度は、年長さくら組の副担任をしています。今のさくら組の子どもたちと一緒に過ごして5年目です。みんながまだ1歳の頃から一緒に過ごし、すぐ側で成長を見守ることができ、年長としての頼もしい姿や優しい一面、可愛い笑顔を発見するととても嬉しいです。そして、子どもたちが保育園で居心地よく過ごせるように配慮していますが、子どもと向き合うな

幼保連携型認定こども園浦町保育園
笹森 由香先生



かで「どうしたらいいのか?」「何を伝えたいのか?」と悩むことも多くあります。しかし、小さな“できた”を発見し、変化や成長を感じて嬉しいこともたくさんあります。発見した時は、保護者の方と一緒に喜びを共有しています。

これからも、子どもたちに寄り添いながら、たくさんの「できた!」や良いところを見つけ、保育園って楽しいと思ってもらえるように、私自身もいろいろと学びながら成長していきたいと思っています。

読み聞かせたい一冊の絵本

だるまさんが

かがくいひろし作（ブロンズ新社）

体を揺らしながら「だ・る・ま・さ・ん・が〜」と読みだすと、一気に引き込まれる子どもたち。「ぶしゅ〜」としぼんだり、「びろ〜ん」と伸びたり…いろいろな動きをするだるまさんが面白く、ページをめくるたびに声を出して笑ったり、動きを真似したり、子どもだけではなく大人も楽しみながら読める絵本の一つです。他にも『だるまさんの』や『だるまさんと』など様々なシリーズが展開され、どのシリーズも読み終わると子どもたちが満面の笑みで「もう一回!」と絵本の楽しさを伝えられる一冊です。



認定こども園青森中央短期大学附属第三幼稚園 山田 紫乃先生

久保薫先生を偲んで

2022年2月28日、青森田中学園学園長・青森中央短期大学学長・青森中央文化専門学校校長である久保薫先生が逝去され、6月19日、ホテル青森（青森市）にて、故久保薫先生のお別れ会を執り行いました。三村申吾青森県知事、小野寺晃彦青森市長、若井敬一郎青森商工会議所会頭をはじめ、各界から多くの弔問客が参列し、久保薫先生の数々の功労を讃え、遺徳を偲んで御霊にお別れをしました。

青森中央短期大学 同窓会会長 工藤 文子様より



謹んでご逝去を悼み、生前の温かいご指導に対し、改めてお礼申し上げます。

「夢をカタチにできる場所 青森中央短期大学」久保薫学長先生の想いが込められた言葉。大学に携わった教職員はもちろんのこと、学生たちの名前を覚えることや、皆が、一人ひとりが、より快適に過ごせるように、常に想いを寄せて

いらした学長先生の姿は、今も目に浮かびます。

初めて学長先生にご指導頂いたのは、もう40数年前になります。その頃私は、幼児教育学科の学生で、専門職を目指す仲間たちと学んでおり、「素敵な薫先生」は私たち学生の憧れでした。また、時には一緒に講義を受けたこと、懐かしく

思い出されます。卒業後は、念願の青森中央短期大学附属第二幼稚園に勤務することができました。在学中や幼稚園教諭として日々奮闘していたころ、専門職としての姿勢や社会人としての身だしなみ、マナー等、細かくご指導頂いたことは私の宝物になりました。

大学のキャンパスは充実した施設環境と共に、メダカ、虫などの生命の源「ビオトープ」もあり、春一番に咲くこぶしの花や桜の木々が彩っています。建学の精神「愛あれ 知恵あれ 真実あれ」と共に学長先生の想いが芽を出し、葉っぱになり、たくさんの花々が咲き、専門職を目指す学びの場として、皆が心地よく過ごせる場所となりました。

今後はその想いに心を寄せ、微力ではありますが同窓会として卒業生の皆さんにお声をかけながら母校の支援を進め、未来へ繋いでいきたいと思います。

久保薫学長先生のこれまでのご導きに心より感謝申し上げます、安らかに永遠の眠りにつかれることをお祈りいたします。

久保薫先生略歴

- 1979年 ● 日本女子大学家政学部 食物学科管理栄養士専攻 卒業
- 1981年 ● 同大学大学院家政学研究科修了（家政学修士）
● 青森中央短期大学食物栄養学科 専任講師として勤務
- 1987年 ● 青森中央短期大学助教授
- 1998年 ● 青森中央短期大学教授
● 青森中央短期大学学長に就任
● 学校法人青森田中学園 理事・評議員に就任
- 2009年 ● 青森田中学園学園長に就任
- 2010年 ● 青森中央文化専門学校校長に就任
- 2013年 ● あおもりファッション協会理事長に就任

在職中は、あおもり「食」と「命」のネットワーク協議会会長、学校給食ふるさと産品活用促進会議議長、青森県食の安全・安心対策本部議長、青森県総合計画審議会安全・安心、健康部会長、青森県水産振興審議会委員・会長などを歴任。

また、2010年より「あおもり食育サポーター事務局」を学内に設置し、県内幼稚園や保育園、小・中学校等の食育活動をコーディネート・支援しました。



▲ 看護学部 飛翔式 (2019年10月)



▲ 青森中央短期大学 食育セミナー(2019年11月)



▲ 青森中央短期大学開学 50周年記念式典(2020年9月)



▲ 国際ソロプチミスト青森 助成金贈呈(2020年9月)



▲ 青森中央短期大学入学式 (2021年4月)



▲ オープンキャンパスにて (2021年5月)



2021年度卒業式スナップ

ご卒業おめでとうございます。皆様のご活躍を心からお祈りいたします。

青森中央学院大学・大学院
学位記・修了証書授与式
(2022年3月17日)



青森中央短期大学
学位記・修了証書授与式
(2022年3月15日)



青森中央経理専門学校・
青森中央文化専門学校
卒業証書授与式(2022年3月19日)



2022年度入学式を挙行了しました

2022年4月、青森田中学園設置校の入学式を行いました。新入生並びに新入生のご家族の皆さま、改めてお祝い申し上げます。充実した学生生活と夢の実現に向け、教職員一同努めてまいります。

青森中央学院大学・大学院



経営法学部194名、看護学部85名、別科助産専攻5名、大学院10名の合計294名の新入生を迎えました。

青森中央短期大学

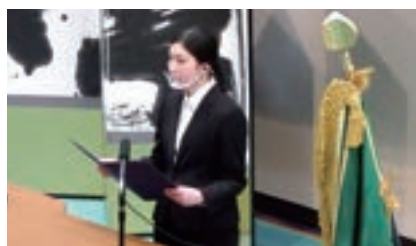


食物栄養学科41名、幼児保育学科50名、専攻科福祉専攻3名の合計94名の新入生を迎えました。

青森中央経理専門学校・
青森中央文化専門学校



青森中央経理専門学校33名、青森中央文化専門学校11名の新入生を迎えました。



必見!「AomoLive(アオモライブ)」



学生が金曜日お昼の生放送に出演

青森市の情報や魅力を発信する広報番組「AomoLive(アオモライブ)」が青森ケーブルテレビで放送中です。毎週月曜日から金曜日までの12時20分から15分間、MCとパーソナリティによるトークと動画をお届けする番組で、金曜日は青森市長がMCを務め、青森市内6大学の学生がパーソナリティとして出演し、それぞれの大学の



▲ 5月24日収録の様子

話題を提供しています。

本学園からも、5月24日の夕方に放送されたキックオフ特番、6月17日の放送回に学生が出演しました。17日の回には学生団体ディベラボの松山康汰さんと村田陽稀さん(共に経営法学部4年)が出演し、昨年、青森市ビジネスアイデアコンテストで最優秀賞を受賞した「小牧野遺跡のグッズ開発」を紹介し、青森市長と起業の面白さについて語り合いました。

今後も6大学の学生が順番に金曜日パーソナリティを務めます。また、放送された動画は青森市公式YouTubeでも確認できますので、ぜひチェックしてください。



公開講座これからの予定

新型コロナウイルスの感染状況等により、一部プログラムが変更となる可能性がございます。詳細は二次元コード、学内設置・配付のチラシ等よりご確認ください。

お問い合わせ：公開講座担当

TEL:017-728-0131 FAX:017-738-8333

* 青森中央学院大学 公開講義「暮らしと地域」

- 7月6日(水) 講座⑦「大正浪漫かほる宮越家離れと庭園の魅力」
講師：中泊町博物館館長 齋藤淳氏
- 7月13日(水) 講座⑧「デジタル博物館ねぶたミュージアムについて」
講師：青森ねぶた制作者 林広海氏



* 青森中央学院大学 まちなかキャンパス「生き生きシニアライフ」

- 7月16日(土) 第2回「老いない骨の作り方」
講師：看護学部准教授 藤澤珠織
- 9月3日(土) 第3回「自分らしい最期を考えよう」
講師：看護学部講師 造田亮子
- 10月8日(土) 第4回「知っておきたい病気のこと」
講師：看護学部教授 坂井哲博
- 11月12日(土) 第5回「高齢者の社会参加～『+C』で健康寿命をのばそう!～」
講師：看護学部助教 太田尚子



* 青森中央学院大学 まちなかキャンパス「ニュースがもっとよくわかる教養講座」

- 7月16日(土) 第2回「最近たまに聞く『エビデンスに基づく政策立案』って何のこと?」
講師：経営法学部准教授 楠山大暁
- 9月3日(土) 第3回「カスハラはなにが問題なのか?」
講師：経営法学部講師 山谷清秀
- 11月12日(土) 第4回「地域の銀行の経営統合と政策的な誘導」
講師：経営法学部准教授 山本俊



* 青森中央短期大学・附属幼稚園 ビオトープ公開講座

- 7月9日(土) ①ビオトープで遊ぼう
- 7月23日(土) ②セミの羽化鑑賞会
- 7月9日(土)～7月31日(日) web公開講座動画配信「子どもの感性を育む自然遊び」



青森田中学園カフェテリアは スマートミール星3つ!



「スマートミール」とは、健康づくりに役立つ栄養バランスのとれた食事のことです。食や健康に関する学会・研究会で構成される「健康な食事・食環境」コンソーシアムでは、厚生労働省の「生活習慣病予防その他の健康増進を目的として提供する食事の目安」等に基づいた基準を決め、審査・認証を行っています。この審査・認証に関する基準項目には、必須7項目とオプション18項目があります。審査・認証で必須項目を満たすと「星1つ」、必須項目の他にオプション5項目以上で「星2つ」、オプション10項目以上で「星3つ」が与えられます。

青森田中学園のカフェテリアでは、昼食時には学生や教職員の健康を意識したランチメニューを提供し、スマートミール認証の「星3つ」を獲得しています。日々の食事を美味しく楽しく、健康に気づかい安心して食べられるよう企画した、学園ならではのメニューです。



*ヘルシーランチ

春夏秋冬ごとに1週間の健康メニューを組み立て、すべて500円で提供。

*UPランチ



体の不調が起きやすい時期に合わせ、血流UPや免疫力UPなどを考えたメニュー内容となっている。写真は抵抗力UPの「ロールキャベツ定食」と、青森中央短期大学食物栄養学科の学生が考案した体を温める「豆乳鍋」のメニュー。

*全国食べ歩き



全国の名物を紹介したメニューも好評。写真は黒いルーとキャベツが特徴的な「金沢カレー」と、静岡のB級グルメ「つけナポリタン」。

新型コロナウイルス感染症への本学の対応について

本学園では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大以来、学生や教職員が一丸となって感染症防止対策に取り組んできました。感染症拡大の状況を踏まえ、適宜、必要な対策を講じていきますので、ポータルサイトや学園ホームページでの定期的な確認をお願いいたします。これからも感染抑止に努めながら、充実した学生生活の実現に取り組んでまいります。



【新型コロナウイルス感染拡大防止対策にご協力をお願いします】

- マスク着用と手洗い・消毒の徹底と検温・健康管理
- 「密閉」「密集」「近距離の会話」の三つの条件を避けることを基本方針とした授業環境の整備と学内換気の徹底
- 感染リスクが高まる学外活動の自粛

※感染拡大防止に向け、新型コロナウイルス接触確認アプリ (COCOA) の利用をお願いします。



最新情報は「学校法人青森田中学園 新型コロナウイルスへの対応について」をご確認ください。

新教職員紹介

青森中央学院大学

* 経営法学部



教授 **中村 陽一** (なかむら よういち)

出身 石川県

担当 新事業構築論、地域探究アクトA、地域密着アクト
【大学院】ソーシャルビジネス特論IB・IIB

前職(立教大学)での長きにわたる経験を活かし、社会デザイン・コミュニティデザイン・ソーシャルビジネス・NPO/NGO等の専門性と結びついた社会連携・地域連携・産学連携を学生・地域の皆さんと共に実践していければと思います。



准教授 **中村 智行** (なかむら ともゆき)

出身 青森県

担当 地域探究アクト、社会調査法、地理学、統計学
【短大】地球と環境

防災・気象の観点から地域課題の解決に貢献していきたいと思います。また、気象予報士としても学園のお役にたてれば嬉しいです。



講師 **鈴木 敬史** (すずき たかふみ)

出身 愛知県

担当 知的財産法、経済法、法と経済

新人教員ということで不慣れな点も多くありますが、皆さんと一緒に成長していきたいと思っています。よろしくお願いします。



講師 **寺澤 智広** (てらさわ ともひろ)

出身 群馬県

担当 簿記論、原価計算論、会计学入門

自分の学問のことやこれまでの経験を伝えるのはもちろん、学生のみなさんと一緒に勉強したりゼミ活動を行ったりして、共に成長していきたいと思っています。よろしくお願いします。



講師 **畠山 光史** (はたけやま あきのぶ)

出身 兵庫県

担当 マクロ経済学、経済政策、ミクロ経済学、経済学
課題研究II

講義・演習では経済学に関連した教育に携わります。組織運営では前任校での経験を活かせれば良いと考えています。研究では既存のテーマとともに、本学の特色ある研究の発展に貢献できるように取り組みます。



講師 **村山 美樹** (むらやま みき)

出身 東京都

担当 憲法、行政法

憲法学を専攻し、特に家族・婚姻をテーマとした研究を進めてきました。憲法と行政法は、難しそうな印象を与える科目かもしれませんが、事例を読むと、意外と身近な問題を扱っている学問であると感じます。できるだけわかりやすい授業を心がけていくつもりですので、どうぞよろしくお願い申し上げます!

* 看護学部



教授 **木立 るり子** (きだち るりこ)

出身 秋田県

担当 地域在宅看護学領域

長い経験を活かして、できることを精いっぱい頑張ります。よろしくお願いいたします。



助手 **畑井 亮平** (はたい りょうへい)

出身 青森県

担当 精神看護学領域

臨床での経験を、皆さんにお伝えできればと思います。よろしくお願いいたします。



助手 **吉田 冬子** (よしだ ふゆこ)

出身 青森県

担当 地域在宅看護学領域

長い臨床経験から、皆さんにお伝えできることも多くあると思います。よろしくお願いいたします。



主任・教授 **猿田 了子** (さるた りょうこ)

出身 秋田県

担当 助産学教育

職業的アイデンティティの高い助産師の育成を目指します。どうぞよろしくお願いいたします。

* 別科助産専攻

青森中央短期大学

* 幼児保育学科



講師 **木戸 永二** (きど えいじ)

出身 青森県

担当 子どもの生活と造形遊びI・II、保育と青森(表現)、人間と芸術など

しっかり食べて、健康に気を付けながら頑張ります。よろしくお願いします。



工藤 純子 (くどう じゅんこ)

出身 青森県

担当 服飾造形

早く仕事に慣れ、学生の皆さんのサポートができるように頑張ります。

青森中央文化専門学校



認定こども園 青森中央短期大学附属幼稚園

* 認定こども園 青森中央短期大学附属第一幼稚園



赤坂 裕子 (あかさか ひろこ)

出身 青森県

担当 園長

子どもたちの健やかな成長を願い、子ども・保護者・教職員みんなの笑顔があふれる幼稚園づくりに努めます。



鳴海 真季 (なるみ まき)

出身 青森県

担当 0歳児つぼみ組

子どもたちと一緒に幼稚園で色んなことを経験し、子どもたちの日々の成長を見守っていきたいです。



須藤 柚菜 (すとう ゆうな)

出身 岩手県

担当 栄養教諭

さまざまな食育活動や普段の給食を通して、子どもたちに食べることの大切さ楽しさを伝えていきたいです。

幼保連携型認定こども園 浦町保育園



小野 詩眞 (おの しま)

出身 青森県

担当 1歳児つくし組

子ども一人一人に寄り添った保育ができるよう、子どもたちに負けないくらいの笑顔で、元気いっぱい明るく頑張っていきたいと思います。

事務局



柿崎 雄希 (かきざき ゆうき)

出身 青森県

担当 総務課

皆さんがデジタル機器を快適に使えるようお手伝いいたします。まだまだ至らない点ばかりですが、よろしくお願いいたします。



三橋 健 (みつはし けん)

出身 青森県

担当 総務課

少しでも多く教職員皆様の業務のお役に立てるよう頑張ります! よろしく願います。



菅谷 洋 (すがや ひろし)

出身 東京都

担当 総務課

学生が学びやすい環境を作っていきます。よろしくお願いいたします。



木村 徹 (きむら とおる)

出身 青森県

担当 総務課

不慣れな点が多く、ご迷惑をおかけすることもあると思いますが、お役に立てるよう頑張ります。



藤塚 直美 (ふじつか なおみ)

出身 青森県

担当 学務課

学生の皆さんが充実した学生生活を送れるよう、サポート頑張ります。よろしくお願いいたします。



鳴海 恵里香 (なるみ えりか)

出身 青森県

担当 キャリア支援課

学生のみなさまへキャリアの支援ができるよう、一生懸命頑張らせていただきます。よろしくお願いいたします。

青森田中学園報「こぶしの花」第107号

発行日: 2022. 6. 30

発行: 学校法人 青森田中学園

〒030-0132 青森市横内字神田12

TEL: 017-728-0131

FAX: 017-738-8333

<https://www.aomoricgu.ac.jp>

<https://www.chutan.ac.jp>

「こぶしの花」編集委員

編集長 加藤 澄

福士 文子 柿崎はるな

外崎 秀香 杉田由佳里

大水 咲良 赤坂 裕子

中田 尋美 岩葉 悦子

町田美智子 高橋 晴美



青森中央学院大学

青森中央学院大学大学院

青森中央短期大学

青森中央経理専門学校

青森中央文化専門学校

認定こども園 青森中央短期大学附属第一幼稚園

認定こども園 青森中央短期大学附属第二幼稚園

認定こども園 青森中央短期大学附属第三幼稚園

幼保連携型認定こども園 中央文化保育園

幼保連携型認定こども園 浦町保育園

「春のキャンパス」

青森中央経理専門学校・

写真サークルの皆さんの作品

撮影: 2022年4月～5月

左から 佐藤紋子(顧問) 蝦名穂乃花(2年) 田中胡桃(1年) 兼平真衣(1年) 一戸美穂(1年)



「こぶしの花」掲載写真募集!

「こぶしの花」編集委員会では、青森田中学園報「こぶしの花」の写真を募集しています。

緑豊かな学園内での、四季折々の風景を題材とした在学生の皆さんの作品をお待ちしています。

■応募期間: 通年

■応募方法: 申込フォームまたはメール
メールの場合は

①件名「こぶしの花写真応募」

②本文「所属・学年・氏名・電話番号・写真タイトル」を記入し

写真データを添付してください。

なお、応募作品は、青森田中学園在学生在が撮影した未発表のものに限ります。掲載が決まりましたら、こちらから連絡いたします。

■応募先メールアドレス: kobushiphoto@aomoricgu.ac.jp

※お問い合わせもこちらのアドレスまでお願いします。

学内アカウントで
応募の際は
こちらの
申込フォームを
ご利用下さい

